

# 東郷セントラル地区低炭素まちづくり計画【法定計画】① ～東郷町の特徴・問題点と目標、導入メニュー～

## 低炭素まちづくり計画の基本的事項

### ■計画策定の目的

東郷町では、「人とまち みんな元気な 環境都市」を将来像に掲げ、集約型都市構造への転換を目指しています。東郷セントラル地区では、東郷中央土地区画整理事業と町役場周辺の公共公益施設とが一体となって、都市機能集積を図り、集約型都市構造への転換を目指す本町の中心核として、さらには、町全体の低炭素化をリードする先導地区として、都市の低炭素化の促進に関する法律に基づき、「東郷セントラル地区低炭素まちづくり計画」を策定するものです。

### ■計画区域



集約拠点地区  
(東郷セントラル地区)

### ■計画期間

平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間とします。

## 東郷町の特徴と問題点

### ■特徴

- 【人口】
- 人口は堅調に増加。人口増加率は県内で 7 位と高くなっています。
  - 年代別では 30 歳代の子育て世代が最も多くなっています。
  - 転出入状況でも 20 歳代後半から 30 歳代が多くなっています。
  - 高齢化率は約 18%で増加傾向にありますが、全国平均(約 23%)、愛知県平均(約 20%)を下回っています。

### 【土地利用】

- 市街化区域内は大半が住宅地の典型的な郊外型の土地利用となっています。
- 市街化調整区域は農地と丘陵地が多くなっています。
- 主な公共公益施設は町役場周辺に集積して立地しています。

### ■問題点

#### 【土地利用】

- 土地区画整理事業は 6 地区で施行済みで、町域の縁辺部で実施されたため、中心部の求心性が弱い状況にあります。

#### 【通勤通学流動・交通手段】

- 15 歳以上の通勤・通学者の 70.5%が町外に流出しています。
- 購買動向は、町外に流出傾向にあります。
- 鉄道駅がないため、通勤・通学者の約 6 割が自家用車利用で、バス利用は約 7%と非常に低い状況にあります。ただし、赤池駅に近い西部地区などでは、バスの利用率が高くなっています。
- 通勤・通学流動、購買動向を見ると踏まえると、日常生活での自家用車への依存度は極めて高い状況にあります。

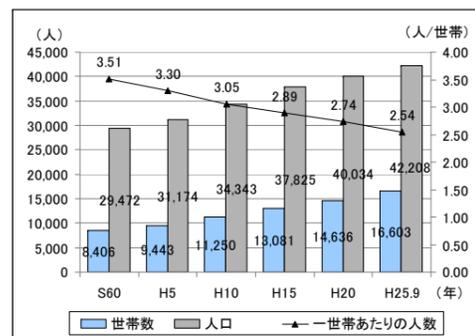


図 人口・世帯数・世帯あたり人数の推移 (各年住民基本台帳)

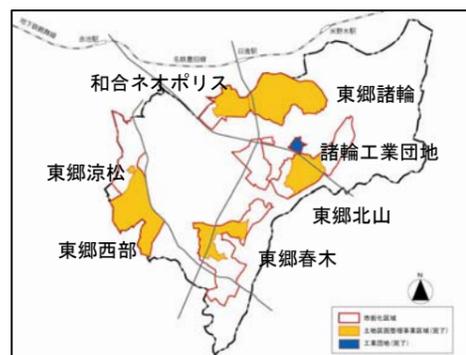


図 土地区画整理事業等位置図

## 低炭素まちづくりの将来ビジョンと目標

### 東郷セントラル地区からはじまるエコまちづくり

～集約拠点の形成による環境都市の実現～

東郷中央土地区画整理事業区域と役場周辺に、都市の中心核となる住宅、商業・便利施設、交通結節点を集約し、町の都市構造を「拡散型の都市構造」から「集約型都市構造」へと転換していきます。

同時に、環境に配慮した取り組みを総合的に行うことにより、低炭素まちづくりを実現します。

東郷セントラル地区が手本となり、ここでのエコライフスタイルが町全体に波及していくことで、町全体が低炭素都市となるとともに、次世代に継承していく「環境都市」としても成熟していきます。

### ■計画目標

集約拠点地区において、集約拠点地区を整備する場合としない場合を比較して、

**CO2 マイナス 27%**

を目指します。

## 基本方針

### 1. 東郷セントラル地区から町全体に波及するエコまちづくりの実践

商業・便利施設や公共施設を集約し、市街地拡散を抑制するとともに町の求心性を高め、町の拠点の実現を目指します。

### 2. 環境にやさしい交通体系の整備

バスターミナルを整備し、公共交通の利便性の向上を図ることで、自家用車への依存からの脱却とともに、車を運転しない高齢者も移動しやすいまちを目指します。

### 3. エネルギー消費量の削減

基盤整備、商業・便利施設及び住宅等の建設において、エネルギー負荷の削減とエネルギーの利用効率の向上、再生可能エネルギーの活用等により、町の CO2 排出量削減を先導するまちづくりを目指します。

### 4. 市街地整備における環境への配慮

公共空間及び民間敷地・建築物におけるヒートアイランド対策や風、みどり、水の活用等により、環境設備に過度に依存しないまちを実現します。

また、エコ活動等を通じて、まちの共同管理・運営、町民参加により持続的なまちづくりを目指します。

## 導入メニューの方向性

### ■集約型都市構造への転換

### ■子育て世帯・高齢者への配慮

### ■道路整備 (走行速度改善)

### ■自動車交通需要の調整

### ■公共交通の整備

### ■公共交通の利用促進

### ■エネルギー負荷の削減

### ■エネルギーの利用効率の向上

### ■再生可能エネルギーの活用

### ■都市計画、条例等に基づく施策

### ■公園緑地の整備

### ■みどりの管理・育成施策

### ■ヒートアイランド化の抑制【地区スケール】

### ■建築物及び敷地内での風、みどり、水の活用

### ■共同管理・運営、市民参加

## 導入メニュー (主なものを記載)

- ・集約拠点への商業・便利施設の立地誘導
- ・集約拠点での公共サービスの提供
- ・集約拠点への居住の誘導
- ・子育て世代、高齢者の要望に対応したソフト施策
- ・多世帯・多世代住宅への助成 等

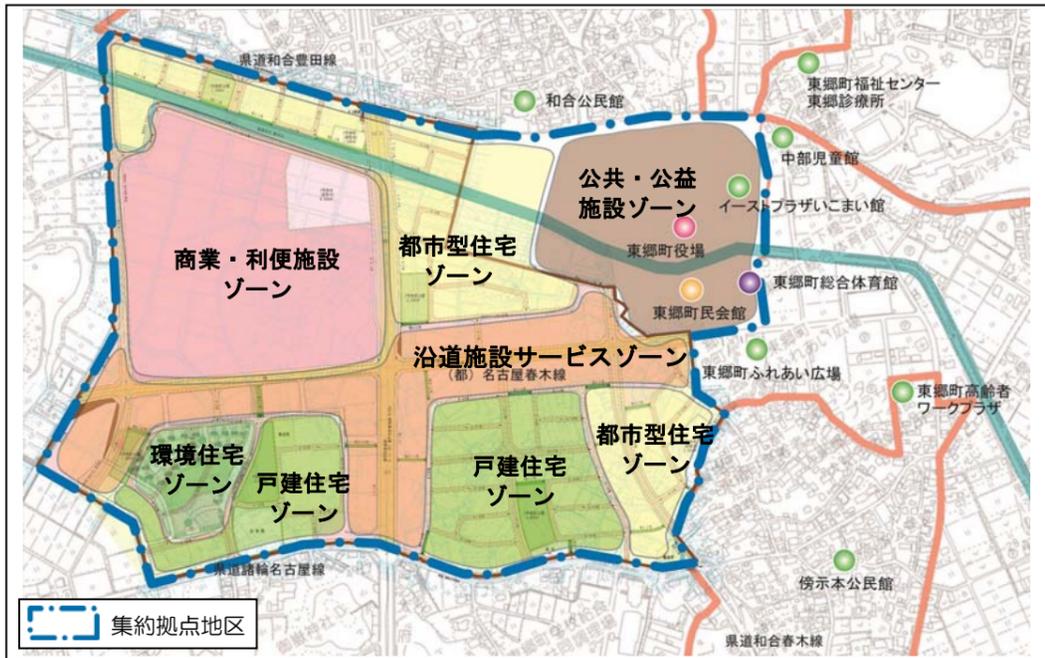
- ・パーク＆ライド、サイクル＆ライドの導入
- ・自転車利用環境の整備
- ・駐車マネジメントの実施
- ・休日の近隣公共施設の駐車場の有効利用
- ・電気自動車やプラグインハイブリッド車などのエコカーの導入促進
- ・交通結節点となるバスターミナルの整備
- ・コミュニティバス等の交通体系の再編
- ・ITを活用したバス利用促進のためのシステムの構築
- ・都市間高速バスの運行
- ・路線バスの運行の再編成 等

- ・スマートメーターによる CO2 の見える化
- ・エネルギー管理システムの導入 (HEMS・BEMS 等)
- ・建物性能による断熱対策、遮熱対策
- ・コージェネレーションシステム等の導入 (商業・住宅)
- ・太陽エネルギーの利用 (発電利用・熱利用) 等

- ・地区計画の導入による低炭素関連施設の担保
- ・緑化地域制度・建築協定・緑地協定・景観計画によるみどりの担保
- ・建築物の環境評価システムの導入 (CASBEE あいち等)
- ・風の道等に配慮した開発
- ・校庭等の芝生化
- ・道路等における緑陰の形成
- ・環境設備に頼りすぎない省エネ建築技術の導入
- ・タウンマネジメント組織の設立
- ・市民ファンドの設立 等

# 東郷セントラル地区低炭素まちづくり計画【法定計画】② ～東郷セントラル地区で実施するメニュー～

## 東郷セントラル地区(集約拠点地区)土地利用ゾーニング図



## アクションプラン



子育て世代、高齢者の要望に対応したソフト施策



交通結節点となるバスターミナルの整備

### ■集約型都市構造への転換と子育て世帯・高齢者への配慮

- ・集約拠点への商業・利便施設の立地誘導を図ります。
- ・子育て世代、高齢者の要望に対応したソフトの提供により、集約拠点への居住の誘導を図ります。
- ・商業・利便施設の来店者だけでなく、従業員にもサービスを提供できる施策の実現を目指します。

### ■交通結節点となるバスターミナルの整備と公共交通の利用促進

- ・集約拠点においてバスターミナルを整備することで、公共交通の利便性の向上と、利用促進を図ります。
- ・路線バスやコミュニティバスの再編を図ります。

### ■太陽エネルギーの利用(発電利用・熱利用)

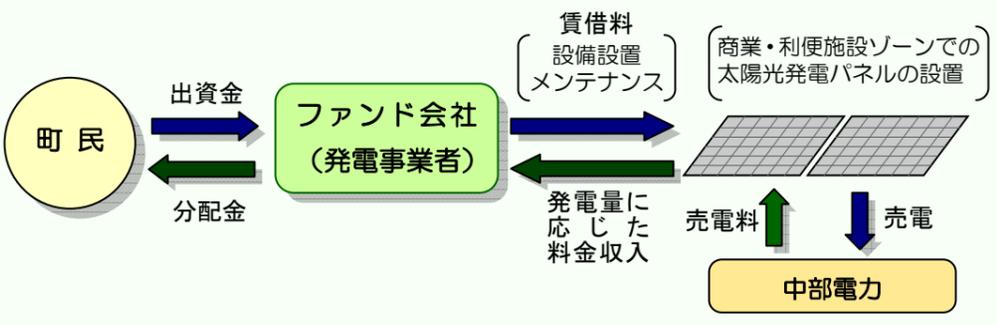
- ・愛知万博の会場で活用された太陽パネルを商業・利便施設内で再利用し、愛知万博の理念である「自然の叡智」の継承と町民の環境意識の高揚を図ります。
- ・環境住宅ゾーン等の住宅においても太陽光パネル等の導入を図ります。

### ■市民ファンドの設立

- ・出資者からの資金を元に事業を行う市民ファンドを設立し、太陽光発電等の環境関連施設の運営費の安定的な確保と、出資者として町民が参加することにより、環境への意識の向上を図ります。



太陽エネルギーの利用



市民ファンドの設立

## 計画の達成状況の評価に関する事項

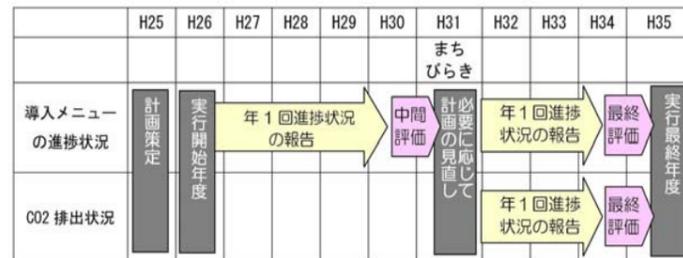
### ■計画の達成状況の評価を行う事項

- ① 施策の進捗状況
- ② CO2 排出状況

### ■評価の方法

- ・年1回、庁内で主管部署による進捗状況を報告し、検討課題の再整理を行います。
- ・中間評価で計画の進捗状況や集約拠点地区でのCO2の排出量の状況等を踏まえ、導入メニューの見直しを行い、「東郷町低炭素まちづくり協議会」で報告します。

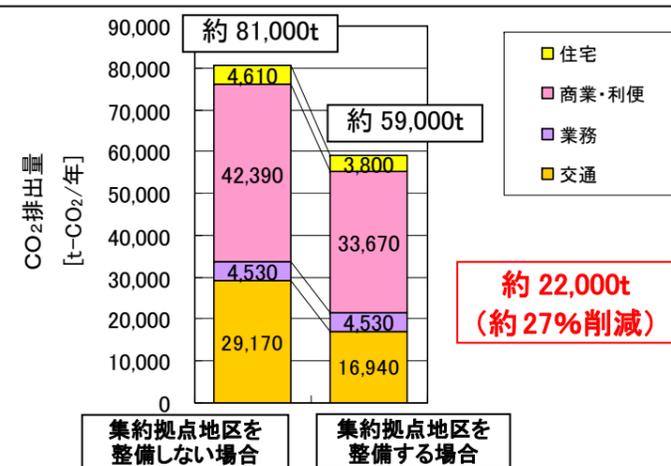
### ■評価を行う時期



### ■評価の公表

町ホームページ及び広報紙にて報告します。

## 東郷セントラル地区を整備した場合としない場合のCO2排出量



## 今後の進め方

- ・「東郷町低炭素まちづくり協議会」を設置し、導入メニューの実現に向けた、関係者間の協議・調整を行います。
- ・協議会では、中間評価時に導入メニューの進捗状況やCO2排出状況について監視と評価を行い、導入メニューの見直しへの助言を行います。
- ・低炭素まちづくり計画を確実に進め、「東郷セントラル地区からはじまるエコまちづくり」を実現し、エコな暮らし方を町全体に広めていきます。